

水稻生産者の皆様へ

代かきによる濁水の河川流出を防止しましょう

環境にやさしいお米作りを進めるため、生産者の責務として代かき時には以下の項目を遵守しましょう。

- 1 代かき水の漏水防止のため、ほ場への入水前に畦や排水口周辺を点検し、必要に応じて補修を行いましょう。

【点検のポイント】

- (1) 畦が崩れていたり、穴などの漏水箇所があれば補修または畦塗りを行う
 - (2) 止水板を閉めたときに排水口に隙間を生じさせない
- 2 代かきは、浅水状態（土面が見える程度）で行いましょう。
 - 3 代かき時は止水板を高くし、トラクターの走行作業で水が排水口から流れ出ないようにしまししょう。
 - 4 田植えの3日以上前に代かきを行い、代かきの作業時及び作業後は落水しないようにしまししょう。
 - 5 1から4に加え、濁り水防止用の凝集剤（塩化カリ、20kg/10a）の代かき前日散布もしくは代かき同時散布の実施に努めまししょう。



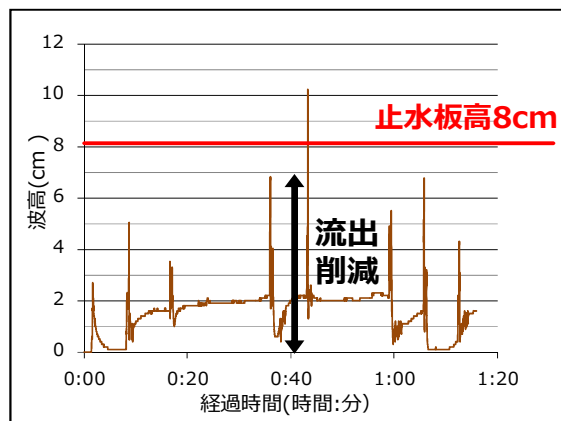
浅水状態における代かきの様子

代かき時の濁水流出防止のポイント

1 止水板高は水面から8cm以上を確保する！

～トラクター走行で発生した波による流出を防止～

- ・代かき時の波高調査の結果、発生する波の高さはおおむね7.3cmでした。
- ・止水板高を水面から8cm以上とすることで、多くの波を堰き止めることができます。



波高調査(計測したほ場での1例)

2 かけ流し（水の出しっぱなし）は絶対にしない！

～かけ流しによる代かき水流出は甚大な河川汚濁につながります～

- ・排水路中の濁り（SS濃度※）を調査した結果、代かき直後のかけ流しにより、水田から水が流出した水路で著しい汚濁が認められました（図1）。
- ・代かき直後の田面水は高濃度の濁水です。排水路に流出すると、河川の汚濁原因となります（図2）。

※SS濃度…水中を浮遊する1 μ m～2mmの粒子の濃度（土の粒子を想定）

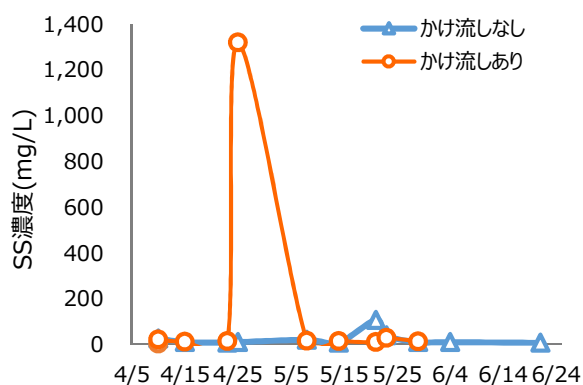


図1 農業排水路の濁り（2019年移植期）



水田（代かき後）



河川へ

図2 代かき水流出と河川汚濁の様子